

いま かん きほんほう せいてい 今こそ「子どもに関する基本法」の制定を！

ひろげよう！ 子どもの権利条約キャンペーン 提言～

2021年11月20日 最終版



子どものみなさんへ

わたしたち「ひろげよう！子どもの権利条約キャンペーン」は、

日本で子どもの権利条約が きちんと 守られるように していくために、日本全国から
約190団体が 参加して 活動する 市民社会ネットワークです。

提言（提案する内容）について

子どもの権利条約に 書かれた 子どもの権利が 守られる社会にするために 必要だと思う
ことを、提言（提案する内容）としてまとめました。

私たちは、この提言を 広く社会に発信します。

そして、国・都道府県・市区町村に この提言を もとにした 取り組みを おすすめのよう
はたらきかけていきます。

●私たちが まとめた提言（提案する内容）は、子どもたちの意見を 取り入れて つけりました。

●ここでいう「子ども」とは、国連子どもの権利条約と 同じように、18歳未満 を さします。

この提言には、

3つの「新しいしくみづくり」と 4つの「大切だと思うこと」があります。

※「子どもに関する基本法」について、ここからは「子ども基本法」と呼びます。



3つの「^{あたら}新しい^{ていあん}しくみ」を提案します

にほん こ けんり じゅうぶん まも
日本の子どもの権利は、十分に守られているとはいえません。それは、子どもの権利を守る
ための「しくみ」がなかったことが、^{えいきょう}影響しています。

だから、^{わたし}私たちは ^{つぎ}次の 3つの内容を ^{くに}国に ^{ていあん}提案します。

^{あたら}＜新しいしくみづくり＞

1. 子どもの権利を ^{けんり}どんな場面でも ^{ばめん}大切にすることを ^{たいせつ}約束する ^{やくそく}

^{ほうりつ}**法律** 「子ども^{きほんほう}基本法」をつくる

2. 子どもの権利を ^{けんり}実現するために、^{じつげん}国が行うことを ^{くに おこな}全体的に見て ^{ぜんたいてき み}
^{やくわり}すすめる役割が ^{でき}できる ^{くに きかん}国の機関をつくる

3. 子どもの権利が ^{けんり}守られているかを ^{まも}確認・監視する ^{かくにん かんし}しくみをつくる

^{いま}今、日本で子どもの権利を守るために、^{たいせつ}大切だと思^{おも}う4つのこと。

にほん こ けんり まも
日本で 子どもの権利が もっと 守られるようになるために、いま ^{たいせつ}大切だと思^{おも}う
4つの^{ぶんや}分野について 提案します。

「子ども^{きほんほう}基本法」をつくるに あたって、その中に A から D の 4つの^{ぶんや}分野で ^{くに}国が
^{おこな}行うべきことについて、^かきちんと 書いてください。

＜大切だと思^{おも}うこと＞

A 子どもの権利^{けんりじょうやく}条約を ^{にほんじゅう}日本中に ひろめる

B 子どもの 声をきいて、子どもと いっしょに ^{こうどう}行動する

C だれひとり、子どもを ^{のこ}取り残さない

D 子どもへの ^{ぼうりよく}暴力を、ぜったいに ゆるさない

（国の）機関（5 ページ、6 ページ、7 ページ）

それぞれの 専門を 担当する 役所や 組織の こと。

国の場合、省庁（たとえば 文部科学省やスポーツ庁）などの こと。

公的機関（8ページ）

社会全体に関わることをおこなっている組織

政策（6 ページ、7 ページ）

問題を 見つけて、それを 解決するための 考え方や 方法を わかるように すること。

権利の保障（8ページ）

権利が 奪われないように 守ること

子どもの権利擁護（8ページ）

子どもの権利を まもり、たすけること



<3つの ^{あたら}新しいしくみづくり>

1. 子どもの^こ権利を ^{けんり}どんな場面でも ^{ばめん}大切に ^{たいせつ}することを ^{やくそく}約束する

^{ほうりつ}法律 「^{きほんほう}子ども基本法」をつくる

1-1 「^{きほんほう}子ども基本法」を、子どもの^{けんりじょうやく}権利条約で ^{やくそく}約束されている ^{ないよう}内容に あわせて、
つくって ください。

●「^{きほんほう}子ども基本法」(に)は

- ・子どもを 1 人の人として ^{みと}認め、子どもは ^う生まれたときから ^{けんり}権利を持っ^もている ^{そんざい}存在だと ^{みと}認める ^{ほうりつ}法律に してください。
- ・^{くに}国として 子どもの ^{じつげん}しあわせを ^{たいせつ}実現するためには ^{かんが}なにが ^{たいせつ}大切と ^{かんが}考えるのかを ^{ほうりつ}その法律に ^か書いて ください。

1-2 「^{きほんほう}子ども基本法」には、子どもの^{けんりじょうやく}権利条約の ^{げんそく}4原則を ^かはっきり書いてください。

子どもの^{けんりじょうやく}権利条約の ^{げんそく}4原則

●^{さべつ}差別の^{きんし}禁止

すべての 子どもは、あらゆる ^{さべつ}差別を ^う受け^{けんり}ない^も権利を持っています。

●子どもの^{さいぜん}最善の^{りえき}利益

すべての 子どもは、^{くに}国や ^{おとな}おとなから、
子どもにとって ^{なに}何が ^{もっと}最も ^{かんが}よいことなのかを ^{かんが}考えて^{けんり}もら^もう権利を持っています。

●^{せいめい}生命・^{せいぞん}生存・^{はったつ}発達の^{けんり}権利

すべての 子どもは、生きる^{けんり}権利・^{そだ}育つ^{けんり}権利を持っています。

●^{いけん}意見を^{けんり}きかれる権利

すべての 子どもは、^{じぶん}自分に ^{えいきょう}影響を ^{あた}与えることについて、
^{じぶん}自分の ^{いけん}意見を ^{あらわ}表し、その意見が ^{じゅうし}重視される^{けんり}権利を持っています。
(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「おやこのミカタ」より)

1-3 「^{きほんほう}子ども基本法」ができたなら、今ある 子どもに ^{かんけい}関係する ^{ほうりつ}法律や^{けいかく}計画に ^か書いて
ある ^{たいせつ}大切にしたいことも ^{ふく}含めて、^{じっさい}実際に行^{おこな}うことが ^{できる}できるように してください。

1-4 「子ども基本法」には、次の2つを「つくること」と書いてください。

- ① 「子ども庁・子ども省」など、子どもの権利の実現を全部まとめてすすめる機関
- ② 子どもの権利が守られているかを確認するしくみ

このような機関は 国の中で どのような役割を担当するのかについても書いてください。

1-5 「子ども基本法」には、次の3つの「すべきこと」を書いてください。

- ① 国がすべきこと
- ② 都道府県・市区町村がすべきこと
- ③ 企業や教育機関など、子どもに影響を与える組織がとるべき行動について

【子どもの意見】

●日本では虐待などが起きている現状があるので、子どもの権利条約は守られていないと 考えます。「子ども基本法」を設置し、子どもの権利が守られるようにするための法律やしくみをつくるのがよいと 考えるため、「子ども基本法」があった方がよいと思います。(11歳)

●「子ども基本法」があれば、おとなは今までよりも、子どもをひとりの人として考えてくれると思う。(16歳)



<3つの ^{あたら}新しいしくみづくり>

2. 子どもの権利を ^{けんり}実現するために、^{くに}国が ^{おこな}行うことを ^{ぜんたいてき}全体的に ^み見て ^{やくわり}すすめる ^{やくわり}役割ができる ^{くに}国の機関を ^{きかん}つくる

※^{くに}国の機関とは、^{しやうちやう}省庁（たとえば ^{もんぶかがくしやう}文部科学省や ^{ちやう}スポーツ庁）のような、それぞれの
^{せんもん}専門を ^{たんとう}担当する ^{やくしよ}役所や ^{そしき}組織の ^{こと}ことを ^い言います。

2-1 ^{くに}（国の機関は、^{やくわり}役割と ^{けんげん}権限をもつこと）

^{くに}国が ^{おこな}行う ^{かんけい}子どもに関係する ^{とく}取り組みを、^{ぜんたいてき}全体的に ^み見て ^{やくわり}すすめる ^{やくわり}役割ができる
^{くに}国の機関（子ども庁・子ども省など）を ^{つく}つくってください。

その機関は ^{きかん}必要な ^{けんげん}権限（^{じっこう}実行できる ^{ちから}力）を ^も持つようにして、^{じゅうぶん}十分な ^{よさん}予算や ^{ひと}人を
^つつけて ^{くだ}ください。

2-2 ^{くに}（国の機関は、^{いけん}子どもの意見を ^ききくこと）

子どもに ^{かか}関わる ^{ほうりつ}法律や ^{せいさく}政策を ^{つく}作り、^{おこな}行い、^{ひやうか}評価するときは、^{ねん}いろんな ^{ねん}年れい
や ^{じやうたい}暮らしの状態にある ^{いけん}子どもの意見を ^ききいてください。

子どもに ^{かか}関わる ^{ほうりつ}法律や ^{せいさく}政策を ^{つく}つくっていくときには、^{きちん}きちんと ^{さんか}子どもが参加して、
^{いけん}意見を ^{あらわ}あらわすことが ^きできるように ^き気をつけてください。

そして、子どもが ^{ようす}つくっていく ^{ようす}様子が ^{わか}わかるように ^ししてください。

2-3 ^{くに}（国の機関は、^{せつめい}子どもに説明を ^{する}すること）

^{ほうりつ}法律や ^{せいさく}政策で ^{けんり}子どもの権利が ^{まも}どのように ^{まも}守られることになるのか、子どもに
^{せつめい}説明を ^ししてください。

2-4 ^{くに}（国の機関は、^{かくにん}確認と ^{はっぴやう}発表を ^{する}すること）

子どもの権利が ^{まも}守られているかを ^{かくにん}確認するために、^{せかい}世界での ^{めやす}目安も ^{さんこう}参考に
^{もくひやう}して ^{さだ}目標を ^{さだ}定めてください。

そして、データや ^{じやうほう}情報を ^{あつ}集めて、その ^{けっか}結果を ^{ひろ}広く ^{はっぴやう}発表して ^{くだ}ください。

また そのときには、子どもの ^{ぷらいばしー}プライバシーにも ^{じゅうぶん}十分に ^き気をつけてください。

2-5 (国の機関は、影響について 評価を すること)

法律や政策を 実際に おこなうことで、子どもの権利が どう影響を 受けるか 評価してください。

2-6 子どもの権利条約を 知り 学ぶ いろんな方法が しっかりと おこなわれるように してください。

2-7 (市民との 協力を 強化する)

国・都道府県・市区町村が、人々と いっしょに 話し合うための 会議を くりかえし 開いたり、わたしたちから 意見を 聴くための しくみを つくったりするなど、そこに暮らす 人々との 協力の強化も してください。

2-8 (取り組みの 枠の中に 入れて ほしいこと)

子どもの権利条約は、
すべての分野(教育や少年司法を含む)に関わることで、
日本で暮らす すべての 18 歳未満の 子ども(外国籍・無国籍の子どもを含む)
に 関することを 取り組みの 枠の中に 入れて ください。

2-9 (子どもから おとなに なったばかりの 18 歳以上の 若者について)

18歳に なったとたんに 支援の 枠の外へ 出すのではなく、必要に あわせて 支援するような 役割を 新しい機関に 持たせてください。

【子どもの意見】

●(子ども庁の 議論が 進んでいることについて)はじめて 知って 驚いた。うれしかったなど 感じたけど、さびしいなども 思った。自分たちの ことなのに、ぜんぜん わかれてないな、と。 こういう 機会だから 知れたけど、クラスの友達とかは わかっていないと 思う。それは ちょっと なーって 思いました。(小学6年生、2021年11月6日 子どもの権利条約フォーラムinかわさきにて)

●法律や政策、条例などを 作る際に もっと 生の 子どもの声を 伝えていくことで、従来の 改善点を より見つけられるように なると思います(17歳)

●ひとつに まとめて 子どもに あった仕組みを つくってほしい(子どもの権利条約フォーラム in かわさきにて)

<3つの ^{あたら}新しいしくみづくり>

3. 子どもの権利が ^{けんり}守られているかを ^{まも}確認・監視する ^{かくにん}しくみを ^{かんし}つくる

3-1 日本に住む ^すすべての子どもの ^{けんり}権利が ^{まも}守られるように、子どもの権利の ^{けんり}状況を ^{じょうきよう}確認、監視する ^{かくにん}公的機関(子どもの権利擁護委員会、子どもコミッショナー制度など)をつくらせてください。

3-2 この公的機関は ^{こうてききかん}政府から ^{せいふ}独立した(影響をうけない) ^{どくりつ}立場で ^{えいきよう}存在すること。

子どもの権利条約に ^{けんりじようやく}てらして、少なくとも ^{すく}次の5つの役割を ^{やくわり}果たせるように、
^{じゅうぶん}十分な ^{よさん}予算と人をつくらせてください。

- ① 日本国内の子どもの権利が守られているかを ^{にほんこくない}確かめ、^{けんり}調査・研究 ^{たし}を行う。
- ② 子どもに ^{かん}関する ^{ほうりつ}法律、政策、体制に ^{せいさく}関して、^{たいせい}政府に ^{かん}提言 ^{せいふ}を行う。
- ③ 子どもの権利条約に ^{けんりじようやく}関する ^{かん}意識 ^{いしき}をより高めることを ^{たか}行う。
- ④ 子どもの権利保障の ^{けんりほしょう}状況を ^{じょうきよう}確認 ^{かくにん}するためにも、また①②③を ^{おこな}行うに ^{おこな}あたって、
子どもの意見 ^{いけん}を ^き聴くことを ^{だいじ}大事にする。
- ⑤ 子どもの権利の保障 ^{けんり}を ^{ほしょう}進めるための ^{すす}助言や支援 ^{じよげん}を、^{しえん}都道府県や市区町村 ^{とどうふけん}に行 ^しく ^{ちようそん}う。

3-3 このような ^{こうてききかん}公的機関を ^{くに}国として設置 ^{せっち}したうえで、

^{とどうふけん}都道府県、^し市区町村 ^しは、^{むりよう}子どもが ^{あんしん}無料で ^{あんぜん}安心・安全に ^{べんごし}弁護士などの ^{せんもんか}専門家に
^{そうだん}相談 ^{いっしょ}ができ、子どもと ^{ひとり}一緒に ^{ひとり}一人ひとりが ^{もんだい}それぞれの ^{かいけつ}問題を ^{かいけつ}解決してくれる「子ども
もオンブズパーソン」「子ども権利擁護委員会」などの ^{けんりようご}子どもの権利擁護の ^{とく}取り組み
を ^{すすめ}すすめられるように ^ししてください。

^{くに}国も ^{しえん}支援 ^{よさん}して ^{よさん}そのための予算 ^{よさん}をつくらせてください。

ことば ^{せつめい}言葉の説明

^{こうてききかん}公的機関 …… ^{しゃかいぜんたい}社会全体に ^{かか}関わることを ^{そしき}おこなっている組織

^{けんり}権利の保障 …… ^{けんり}権利が ^{うば}奪われないように ^{まも}守ること

^{けんりようご}子どもの権利擁護 …… ^{けんり}子どもの権利 ^{けんり}を ^{けんり}まもり、^{けんり}たすけること

【子どもの意見】

- 子どもの権利条約が^{けんりじょうやく} 守られているかどうか、^{まも} 独立した^{どくりつ} 監視・救済のための^{かんし きゅうさい} 公的機関を^{こうてききかん} つくってほしいです。^{こくれん} 国連からも^{なんど} 何度か^{してき} 指摘されていることでも あります。いじめホットラインや^{ぎゃくたい} 虐待SOS などだけでなく、^{けんりぜんぱん} 子どもの権利全般に^{たい} 対する^{きかん} 機関が^{ひつよう} 必要なのです。(高校3年生)
- 確かに^{たし} 日本には^{にほん} 国連の子どもの権利委員会のような、^{けんりいいんかい} 子どもの権利が^{けんり} 守られているか、^{まも} どこを直せばよいかを^{なお} 国民に公表し、^{こくみん} 政策にも^{こうひよう} 反映させるような^{せいさく} 機関がないので^{はんえい} この機関は^{きかん} とても必要だと^{ひつよう} 思いました(15歳)^{おも}
- 国とか近くに、^{くに} 子どものことを^{ちか} 見守るところが^{みまも} たくさんあるのは^{おも} いいことだと思います。(小学1年生)



【なぜ「子ども基本法」が必要なの？】

・子どもに関する法律が日本にはたくさんあります。

しかし、子どもを 1 人の人として認め、子どもが生まれながらにして権利を持っている存在であること(権利はおとなから与えられるものではないこと)についてきちんと書かれている法律がありません。また、子どもの権利のすべてをひとつにまとめて書かれている法律がありません。

・日本は 1994 年に子どもの権利条約を守ることを約束しました。そして国連子どもの権利委員会に、子どもの権利がどのように守られているかを報告してきました。

しかし、国連子どもの権利委員会は、日本からの報告に対して「子どもの権利すべてを保障する法律」をつくるよう、何度も強くすすめています。

・こうした法律がないことは、日本の子どもに影響しています。

なぜなら、問題が起きた時に、その解決方法が「おとなの視点や都合」によるものが多く、「子どもの権利」の視点にたっていないため、本当の問題が何かを見つけづらく、子どもにとってもっとも良いことをきちんと考えることができないのです。

子どもの権利条約を知らない人が多く、「子どもに権利がある」という感覚が、人々の中にあまりないことも、子どもの権利を奪う大きな原因のひとつになっています。

【なぜ新しい機関が必要なの？】

・国が行う子どもに関わる取り組みは、教育、福祉、保健、司法など分野によって、複数の省庁にまたがっています。

複数の省庁が別々に活動することで、子どもを対象にした同じようなサービスがたくさんできてしまい、どのサービスを使ったら良いかまよって子どもやその周りのおとなが困ってしまうことがあります。

【なぜ独立した公的機関が必要なの？】

・子どもの権利が守られるようにするのは国の義務ですが、国が子どもの権利を守っていない場合もあります。そのために、国から独立して(影響をうけない)監視する機関が必要です。

子どもの権利条約を守ると約束をした国は、その約束がきちんと果たされているかを確認するためにも、国から独立した監視機関をつくるよう、国連子どもの権利委員会はすすめています。

・子どもの権利が侵害されているとき、子ども自身が訴えて、子どもの意見を表わせる場を公式に国として持っていません。

<大切だと思う 4つの こと>

A 子どもの権利条約を 日本中に ひろめる

A-1 子どもから おとなまで、すべての 人が「子どもの権利条約」を 学び 理解でき、
毎日の 生活の中で「子どもの権利」が 守れるように してください。

A-2 特に いつも 子どもの そばに いる人たちには
子どもには おとなと 同じように権利があること
子どもには 特別な権利も あることを きちんとわかって 行動ができるように
学ぶことと 実際にやってみる機会を 増やしてください。

【子どもの意見】

- 学校教育で、しかも 義務教育で、ちゃんと 子どもの権利条約の 内容を 子どもに伝えるべき。(高校3年生)
- 子どもの権利条約を 授業で 学んだ時、途上国の 子どもの問題で、日本の 子どもは 権利が 守られているから 関係ないという感じを受けた。でも、日本の 子どもも 権利が 守れてないと思う、もっと ちゃんと 教えてほしい。(16歳)
- 子どもの権利条約を 日本および 世界の中で 広めるために、おとな、子ども、社会に対して アクションを 提案したいです。(中略)「子どもなのに すごいね」「子どもだから できないよ」という声が 少なくなり、子どもの尊厳が 守られる 社会に なってほしいです。(小学6年生)

【そのためにできること】

- ① 子ども自身が 自分の権利を知り、学ぶ。
 - ・すべての子どもが 必ず学校で、
子どもの権利条約を 自分のものと 感じられる方法で 学べるように、カリキュラムに しっかり入れる。
また、さまざまな科目の中に、子どもの権利条約の 考えかたを入れ、子どもたちが学び、考える機会をつくる。
 - ・CAP(子どもへの暴力防止プログラム)など すでに 多くの 自治体(都道府県・市区町村など)で 行われている 体験型のワークショップ(学習会)を 通じて、子どもたち自身が 権利を 持っていることを 実感できる プログラムを 行う。
 - ・「生徒手帳」で、子どもの権利条約を紹介する。
 - ・里親家庭や施設で 暮らすことになった 子どもに「子どもの権利ノート」を 配って きちんと 活用する。

② 保護者や子どもにかかわる人たちが、子どもの権利条約を学ぶ。

- ・「母子(父子)健康手帳」をはじめ、親向けの資料で子どもの権利条約を紹介したり、講座(勉強会)を開いたりする
- ・子どもに関する専門家(保育士、幼稚園・学校の先生など)になることをめざして大学などで勉強する計画に、子どもの権利条約の内容をきちんと入れて、実際の状況で行うことができるよう訓練する。
- ・子どもたちがいつもいる場所で子どもに接する人たちが、学ぶことができるよう支援をする。

＊「いつもいる場所」というのは・・・

保育園や幼稚園、認定こども園・学校

学校以外の子どもたちが過ごす「居場所」(フリースクール、放課後児童クラブ、児童発達支援・放課後等デイサービス、児童館、冒険遊び場、こども食堂、子どもの学習支援、塾など)

子どもたちが暮らす施設 など

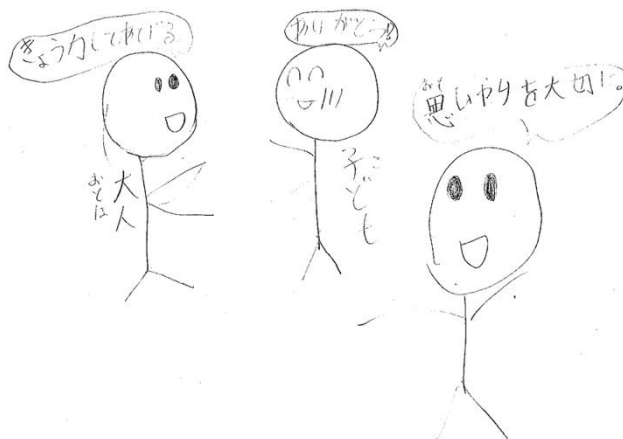
- ・子どもに関わる職業の人たちには、子どもの権利条約をどのように日ごろからおこなうことができるかを定期的に繰り返し職員研修で学べるようにする。
- ・子どもの居場所で、子どもに直接関わるボランティアをする人へも、学ぶ機会をつくる。
- ・子どもを預かったり支援したりする場で、子どもへの暴力や虐待が起きないように、セーフガーディング(こころとからだの安全と権利を守る)などの職員研修を行う。

③ 全国および地域でひろげる。

- ・子どもの権利条約の内容を関連する記念日に発信する。

⇒こどもの日(5月5日)、世界子どもの日(11月20日)、「虐待防止月間」(毎年11月)、「人権週間」(毎年12月4日～10日)など

- ・「子どもの権利週間」を新たに作り、全国的に子どもの権利条約を知り・学ぶ機会をつくる。
- ・子どもの権利条約について、マスメディアやSNSで発信していく。
- ・市区町村での差がでないよう、子どもの権利条約が地域でも広く届くように国としてバックアップする。



B 子どもの声を きいて、子どもと いっしょに 行動する

B-1 子どもに 関係する すべての 法律や政策(政府のめざすことや行動案)は、
いろんな 年れいや 暮らしの状態にある 子どもたちから 意見(そうしたいと 思う
こと、気持ちが 向くことも ふくむ 広い意味)を きいて つくってください。
そして、子どもに わかりやすい 文章や 言葉で 伝えてください。

B-2 自分から 声を あげづらい 状況にある 子ども(赤ちゃんや 小さい子、障害のある
子ども など)には、その子どもの 声を、子どもの 代わりに 言ってくれる人や、
聴きとることが できるような しくみが 必要で あることも 忘れないで ください。

B-3 子どもに 関わることについて、子どもが 自由に 意見を 言えること。
また、その意見を 真剣に 受け止めて 大切に 取り扱う しくみを
国、都道府県、市区町村で 整えて、正しく 活かすように してください。

B-4 子どもには 自分の 気持ちや 意見を 伝えたり、グループを つくったり、
社会に参加する 権利と力が あります。
子どもが もっている力を じゅうぶん 使うことが できるための しくみを
国、都道府県、市区町村、学校や 地域などで つくってください。

B-5 権利を 守られていない 子どもを 救い 助ける 時にも、
子ども自身の 声を 聴くしくみを つくって ください。

【子どもの意見】

●子どもの 参加する権利と 聞くと、「子どもは わがままに なる」と考える人が いますが、子ども
が 参加する権利を 知ること、自分の 頭で 考えて 意見を 発することが できるようにな
るからです。私たち 子どもにも、賛成かどうか 聞くだけではなく、同じテーブルで、話す一人
として 意見を 言わせてほしいです。(中学3年)

●子どもに 関する 政策などを 決める時は 子どもの意見を 聞くというのに とても 共感した。
コロナの時も 会社が テレワークなどに なる前に まず 学校が 一斉休校に なったのも 子ども
に 関わることなので、子どもの意見も 聞いてほしかったと 思うし、なぜ 大人の活動よりも 先
に 学校を 休校に したのかと思う。だから、どんな場面においても 子どもに関する 政策を
考える時は 子どもの意見を 聞いてほしいと 思う。(15歳)

●子どもの声を聴くことを 本^{ほん}当^{とう}に 大^{たい}切^{せつ}にしてほしい。意^い見^{けん}を きいてもらえないと、はなっから 伝^{つた}える意^い欲^{よく}も 奪^{うば}われてしまうからです。(16 歳)

【そのために できること】

① しくみを 整^{ととの}える

子どもには 意^い見^{けん}を 言^いう権^{けん}利^りがあり、おとなは その意^い見^{けん}を きちん^{たいせつ}と大^{たい}切^{せつ}に しなければいけ^いない。

・そのことを、子どもに関する法^{かん}律^{りつ}に きちん^きと入^いれる。また、子どものこのような権^{けん}利^りを まも^もるための 具^ぐ体^{たい}的^{てき}な 方^{ほう}法^{ぽう}につい^きても、法^{ほう}律^{りつ}で 決^きめてお^おく。

・国^{くに}・都^と道^{どう}府^ふ県^{けん}・市^し区^く町^{ちょう}村^{そん}の取^とり組^{くみ}・政^{せい}策^{さく}に 子^こどもた^ちの 意^い見^{けん}が 生^いかされ^おるよ^{よう}にす^するため、子^こども向^むけの 意^い見^{けん}募^ぼ集^{しゅう}をす^することや「子^こども会^{かい}議^ぎ（議^ぎ会^{かい}）」を お^おくことな^などを す^すすめる。

・子^こどもの SOS に 対^{たい}応^{おう}して^いる し^しく^みや 団^{だん}体^{たい}を 支^し援^{えん}する。

・子^こどもア^あド^どボ^ぼケ^けイ^いト^とな^など、子^こども^この 声^{こゑ}を 聴^きき、代^かわ^わり^にに 伝^{つた}え^える し^しく^みをつ^つく^くる。

・ど^たんな 立^{たち}場^ばの子^こどもも、行^{ぎょう}政^{せい}（国^{くに}や都^と道^{どう}府^ふ県^{けん}、市^し区^く町^{ちょう}村^{そん}）な^などに 意^い見^{けん}をい^いうこ^ことが でき^{でき}るよ^{よう}に、ホ^ほー^まム^ーペ^ーー^ージ^ーな^などだ^だけで 募^ぼ集^{しゅう}するの^ので^でな^なく、学^{がっこう}校^{がう}な^などを 通^{とお}して 募^ぼ集^{しゅう}を かけ^{かけ}る。

② 子^こども^この 声^{こゑ}を 聴^きくた^ための し^しく^みを も^もっ^と つ^つく^くる

お^おと^とな^なが 子^こども^この 声^{こゑ}を受^うけ止^とめ^める。社^{しゃ}会^{かい}に 発^{はつ}信^{しん}する。子^こども^このお^おか^かれ^れて^てい^いる 状^{じょう}況^{きょう}を 変^かえ^えるよ^{よう}な し^しく^みを つ^つく^くる。

・意^い見^{けん}を う^うま^まく 言^いえ^えない、言^いっ^ても しか^{しか}た^たが^がない^いと 思^{おも}っ^てい^いる 子^こども^この 声^{こゑ}を し^しっ^かり 聴^きい^いて い^いくよ^{よう}に する。

・子^こども^こが 使^{つか}え^える 言^{げんご}語^ご（日^に本^{ほん}語^ご以^い外^{がい}、手^{しゅ}話^わな^など）や 方^{ほう}法^{ぽう}を 使^{つか}っ^て 意^い見^{けん}が^ができ^{でき}る。そ^その 声^{こゑ}を 聴^きく し^しく^みを つ^つく^くる。

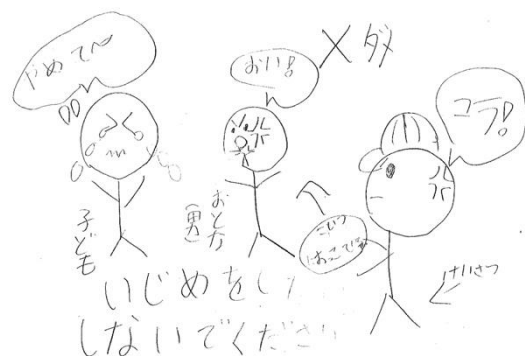
・お^おと^とな^なが 子^こども^この 声^{こゑ}を じ^じっ^くり 聴^きく 時^じ間^{かん}を し^しっ^かり と 持^もて^てるよ^{よう}に するこ^こと。そ^そのた^ための 環^{かん}境^{きょう}を 整^{ととの}え^えて 支^し援^{えん}を する。

③ 子^こども^こを エ^えン^んパ^ぱワ^わー する

子^こども^こが 意^い見^{けん}を 言^いい、行^{こう}動^{どう}して い^いけるこ^こと、そ^その 力^{ちから}を 身^みにつ^つけるた^ための 環^{かん}境^{きょう}づ^づくり と 支^し援^{えん}を する。

・ほ^ほか^かの 人^{ひと}と コ^こミュ^{みゅ}ニ^にケ^けー^えシ^しョ^うン^んする^{する}力^{りき}、人^{ひと}前^{まえ}で 意^い見^{けん}を 発^{はつ}表^{びょう}する^{する}力^{りき}な^などを 子^こども^こが 身^みにつ^つけ^けら^られるよ^{よう}に して^{して}い^いく。

・子^こども^こが 忙^{いそが}し^しぎ^ぎず^ずて 意^い見^{けん}を 言^いっ^たり 行^{こう}動^{どう}し^したり するた^ための 時^じ間^{かん}が な^なく^くな^なら^らないよ^{よう}に する。



<大切だと思う 4つの こと>

C だれひとり、子どもを ^{と のこ}取り残さない

C-1 子どもへの ^{さべつ}さまざまな ^{と く おこな}差別を ^{なくす}なくすための ^{と く おこな}取り組みを行い、
^{こくせき}国籍、^{せいべつ}性別、^{ねんれい}年齢、^{げんご}言語、^{しょうがい}障害などに ^{かかわらず}かかわらず、
日本に ^す住む ^{すべ}すべての ^{けんり}子どもの権利が ^{まも}守られるように ^{して}してください。

C-2 日本に ^す住む ^{すべ}すべての ^{こども}子どもたちが、^{がっこう}学校だけでなく ^{がっこうがい}学校外でも
^{じぶん}自分にあつた ^{ほうほう}方法で ^{じゅうぶん}じゅうぶんな ^{きょういく}教育を ^{うける}うけることが ^{できる}できるように ^{して}してください。

C-3 子どもの ^か力では ^{どう}どうにもできない ^{こま}困ったことが ^お起きている ^{こども}子どもを ^ももっと
^ししっかり ^さささえてください。

*「^{こま}困ったこと」というのは、
たとえば・・・

- ・^{ひんこん}貧困(お金のことで ^{ひと}ほかの人に ^あとつての ^{まえ}当たり前が ^{でき}できていない)
- ・^{ぎゃくたい}虐待(いろいろな暴力や無視など、いやなことを ^さされている)
- ・^{さいがい}災害に ^ああつた(地震や台風・ごう雨など)
- ・^{いきづらさ}生きづらさ(生きることが ^{たの}楽しくない、つらいと生活の中で感じる、あきらめる)
- ・^{しょうがい}障害がある
- ・^{がいこく}外国ルーツや無国籍である
- ・^{にほん}今の日本社会の中で子どもが必要以上の責任を背負う(ヤングケアラーや児童労働など)

【子どもの意見】

●^{ふとうこう}不登校の ^{こども}子どもたちが ^ふ増えているが、そのなかで、^{がっこうがい}学校以外の ^{いばしょ}居場所で、^{じゆう}自由に ^す過ごして
^{いい}いいという ^{にんち}認知が ^{ひろ}広がってない。学校に ^{がっこう}行きたくないのに、学校に ^い行くことが ^{ただ}正しい、という
^{かちかん}価値観だけが ^{ただ}正しいというのは ^{おか}おかしい。学校外での ^{がっこうがい}学びの ^{まな}選択肢が ^{せんたくし}認知されて ^{にんち}ほしい。
(17歳)

●^{わたし}私自身、^{がいこく}外国に ^なルーツのある ^{こども}子どもです。外国に ^{がいこく}ルーツのある ^{こども}子どもの中には、^{けいざいてき}経済的な
^{りゆう}理由や、^{ことば}言葉の壁から ^{こうこう}高校や大学への ^{だいがく}進学を ^えあきらめざるを得ない場合があります。でも、
^{じったい}その実態が ^わわからないので ^{たいさく}対策しきれません。日本政府には、外国にルーツのある ^{こども}子どもの
^{きょういく}教育を受ける権利の ^{じったい}実態を ^{ちやうさ}ちゃんと調査して ^{こうひょう}公表して ^{さい}ほしいです。(17歳)

●^{いろん}いろんな ^{こども}子どものに ^き気を配ってほしい。おとなが ^{そうぞう}想像しているより ^{たいへん}大変な子どもは ^たたくさん
いる。(小学4年生、高校2年生)

【そのためにできること】

① 法の制度を整える。

いまある法律で差別をなくすための取り組みをもっとすすめる。必要があれば新しい法律をつくる。

② 現在の制度を見直す。

権利がきちんと守られないまま放置されている子どもを支えるために、国・都道府県・市区町村の取り組みを子どもの権利の視点から見直す。

・フリースクールなど学校以外の場所で学ぶ機会がもっと守られるようにする。

・その人が そうしたいと思っていないのに学校に行けなくなることがなくなるように、今の学校教育の決まりを見直す。

・いまだにどこの国の国籍も持てない子ども（無国籍児）や戸籍がつけられていない子ども（無戸籍児）がいて、権利を保障することがむずかしくなっているの、このような子どもが生じないように制度を見直す。

③ さまざまな子どもの思いや希望にこたえる。

・日本に住む、先住民（沖縄・琉球の人々やアイヌ民族など）の子どもや、外国とつながりのあるすべての子どもが、日本語と日本の文化だけではなく、親から受けつぐ言葉や文化も大切にしておいて教育を受けることができるようにする。

・障害がある子どもや、いろいろな助けが必要な子どもが、みんなと いっしょに学べることを選べるように必要な助けを受けることができるようにする。

④ さまざまな状況にある子どもを支援する。

・地震・台風・豪雨などの災害にあった子どもが長い間でも支援を受けられるようにする。

・新型コロナで日本中の子どもがしばらく学校に行けなくなったことなども考え、新しい「学び」のあり方を子どもたちと いっしょに考えていく。



<大切だと思う 4つの こと>

D 子どもへの 暴力^{ぼうりょく}を、ぜったいに ゆるさない

D-1 子どもへの すべての 暴力^{ぼうりょく}を なくすための 取り組み^{とりくみ}を 強化^{きょうか}してください。

D-2 「子どもへの すべての 暴力^{ぼうりょく}」とは、具体的に^{ぐたいてき} どのようなことが 含まれる^{ふく}のかを、子ども自身^{こ じしん}に 広く^{ひろ} 伝えて^{つた}ください。
子どもは すべての 暴力^{ぼうりょく}から 守られる^{まも}権利^{けんり}を もっています。
暴力^{ぼうりょく}を受けたとき、子どもは 助け^{たす}を もとめられること、
そして 助け^{たす}を もとめる 方法^{ほうほう}を、子どもに どんどん 知らせ^してください。

D-3 家庭^{かてい}や 学校^{がっこう}の ほかにも 子どもに とって 安全・安心^{あんぜん あんしん}な 「居場所^{いばしょ}」を
子どもの 身近^{みぢか}な(すぐ近く^{ちか}の) 場所^{ばしょ}に つくってください。

D-4 子どもと 直接^{ちよくせつ} かかわることが ある人も ない人も、
子どもは すべての 暴力^{ぼうりょく}から 守られるべきで あることが わかり、
暴力^{ぼうりょく}を 受^うけている 子どもを 見逃^{みのが}さず 支援^{しえん}できるように してください。

*「子どもへの 暴力」というのは
たとえば…

- ・いじめ、虐待^{ぎゃくたい}、体罰^{たいばつ}、言葉^{ことば}による暴力^{ぼうりょく}
(なぐる ける、心を^{こころ} きずつけることを 言^いったり したり すること、いやがらせ、
無視^{むし}、子どもの 気持ち^{きもち}を 考え^{かんが}ない指導^{しどう})
- ・性暴力^{せいぼうりょく}:(いやらしいことを言^いったり したりすること) などを含^{ふく}みます。

【子どもの意見^{いけん}】

- おとなは 子どもより 強い^{つよ}と 思^{おも}っているから、そういったこと(暴力^{ぼうりょく})が できるんだと 思^{おも}う。
だから 子どもの権利^{たか}を 高めることで 守^{まも}ることができると思^{おも}う。(17歳^{さい})
- なぜ 暴力^{ぼうりょく}を ふるっている人が いるかを 考^{かんが}えると 何かしら^{なに}の 理由^{りゆう}(経済^{けいざい}的に 苦し^{くる}く
精神^{せいしん}状態^{じょうたい}が 安定^{あんてい}しない、など..) そういったことの 支^さえを強く^{つよ} 手厚^{てあつ}いものにす^{ひつ}る 必要^{ひつよう}も
あると 感^{かん}じました。(17歳^{さい})
- 居場所^{いばしょ}を たくさん つくることは とても大事^{だいじ}だと思^{おも}います。家^{いえ}や学校^{がっこう}に 居場所^{いばしょ}がない子
でも それ以外^{いがい}に 居場所^{いばしょ}が あれば、助け^{たす}を 求^{もと}めることが できやすくなると 思^{おも}います。
(18歳^{さい})
- 安心^{あんしん}して 話^{はなし}を聴^きいてくれる 居場所^{いばしょ}が、日本中^{にほんじゅう}の 子どもの 近く^{ちか}に あったらいいのに。
(9歳)

【そのために できること】

① 法律で 明らかにする。

子どもへの暴力は、どんな場所でも、どんな形でも 許されないと、さまざまな法律などにきちんと 書く。

② 子どもを 支援する。

・恋人など 親しい人同士の 間で ふるわれる暴力（デートDV＝ドメスティック・バイオレンス）や、
自撮りなど オンラインでの 性的被害の 予防対策や 性に関する教育を 強化する。

・暴力を受けたり いやなことがあったり したとき、安心して 相談・通報できる しくみと 雰囲気をつくる。

・子どもが 安心して安全に 過ごすことができる「居場所」を、全国で 子どもの 身近なところに つくる。また、居場所づくりを すすめている 団体やグループが 活動しやすいよう支援する。

③ おとなが 暴力について 知って 理解を深め、使わないよう 支援する。

子どもへの すべての 暴力の禁止について おとなが 知り 理解を 深められるように する。

親をはじめとする おとなが、暴力をふるわずに 子どもに 接することができるように 支えていく。

⇒体罰を使わずに 子どもと関わる 方法について 学ぶ機会を、すべての おとなに 提供し、実際にやれるよう 支援する。

⇒子どもに 普段から 関わるおとなが、ストレスがたまって 子どもに あたったりしないよう、おとなの問題にも 取り組む。



いま くに 国が 子どもに かかわる 新たな 新しいしくみをつくろうとしていること。
よりよい しくみに なるように おとなが 子どもと 相談した 提言を 発表したこと。

子どもの みなさんにも この情報を 伝えるために、子ども版をつくりました。
読みやすく なるように 表現を 工夫したり 言葉の説明を加えましたが、
それでも 文章が 長くて 難しく 感じるかもしれません。
そのときは、あなたの 近くにいる おとなと 一緒に 読んでみて ください。
そして みなさんの 意見を 聞かせて ください。

つぎ 次に 子ども版をつくる時の 参考に なります。よろしく お願いします。



■子ども・若者へのヒアリング概要 (2021年11月22日更新)

本提言最終版を作成するにあたり、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」政策提言チームを中心に、18歳以下の子どもや若者にオンラインや対面にて下記の機会を通じて意見や質問を集めました。

実施期間	ヒアリング実施形態	参加者及び人数	実施団体
2020年 10月21日～11月14日	広げよう！子どもの権利条約キャンペーンに所属する団体を通じたオンライン及び対面アンケート	18歳以下の子ども（一部20代のユース）73人	ACE、東京シュレー、子どもの権利条約フォーラム in とうかい、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン
2020年 11月15日	子どもの権利条約フォーラム2020 in 南砺 分科会：「子どもからの発信」	18歳以下の子どもと20代ユース約45名	子どもの権利条約ネットワーク
2021年 2月3日～2月18日	子ども基本法制定に向けた提言内容に関するオンラインアンケート及びオンラインヒアリング会	18歳以下の子ども 57人	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2021年 4月18日	子どもの権利を実現するための国会議員向けイベントに向けた事前準備オンラインワークショップ	小学6年生～高校3年生 15人	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2021年 4月22日	子どもの権利保障のための提言発表院内集会	小学6年生～高校3年生 5人	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン
2021年 6月5日～12日	院内集会「きいてよ！私たちの声～子どもの権利に関する基本法実現に向けて～」事前準備オンラインワークショップ	11歳～22歳 23人	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2021年 6月15日	院内集会「きいてよ！私たちの声～子どもの権利に関する基本法実現に向けて～」	11歳～18歳 16人	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン
2021年 8月1日～8月15日	子ども基本法に関するアンケート	11歳～18歳 11人	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2021年 9月24日～10月31日	「今こそ『子どもに関する基本法』の制定を！」に関するオンラインアンケート	11歳～18歳 11人	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
2021年 10月29日	内閣官房との意見交換会にむけたオンライン顔合わせ会	9歳～18歳 13人	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン
2021年11月2日	内閣官房とのオンライン意見交換会	9歳～18歳 16人	内閣官房こども政策推進体制検討チーム
2021年11月7日	子どもの権利条約フォーラム2021 in かわさき 分科会 子どもと考える子ども庁と子ども基本法	18歳以下の子ども 9人	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン